

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども支援事業所つくしくらぶ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年1月9日		令和8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員体制と事業所環境について、職員は十分に配置しており児童の個別療育の時間も十分にとれています。事業所環境は2階建て構造であるためバリアフリーにできませんが、逆にそれを活かして療育を行っています。カフェの居ぬきをお借りしているのでキッチンスペースが広く、調理レクリエーションもみんなで行えます。	職員配置が十分なため、同時に複数の活動を行う事ができ、児童の成長に合わせた細やかな支援が行えています。2階建てであるため階段がありますが、狭い階段を行き来する時のルールやマナーを教える事により事故などは一度もありません。	2階にあるスペースと1階キッチン裏手のスペースを整えて、個別対応が必要な児童が安全に遊び学べる場所にしようと考えています。2階のスペースではドアを開ければ半個室となり広いスペースと交流できます。1階のスペースは完全に隔離できるため、刺激に弱い児童のクールダウンの場所として使えると考えております。
2	児童に対する支援についてはおおむね高評価を頂きました。十分な職員配置を行う事で児童一人一人に丁寧に接する事ができています。保護者会の開催や家族参加のイベント等を多数実施している為、ご家族の皆様や保護者間の距離も縮まり保護者支援でも高評価を頂きました。	子ども達には日々の感想やかえりの会で自分の考えを発信する場を設けています。保護者には送迎の際にお話しを伺ったりSNSを使用して情報共有を図っています。保護者学習会では保護者の皆様が今知りたい事に対してお答えさせて頂いています。作成すべき書類についても行政の指導に基づき丁寧に作成しております。	長くご利用頂いている児童が多く子ども達も成長しております。年齢層に合わせた支援になるように支援内容を定期的に見直しております。徐々に高学年の割合が増えてきましたのでそれに合わせて環境から変えていこうと考えています。低学年の児童もそれに触発されてお兄(姉)さんらしい振舞いになることが見込まれます。

3	<p>災害の発生に備えた訓練は定期的に行っており、その様子はホームページ上や機関誌にて保護者に報告しております。訓練だけでなく防災学習にも取り組んでおり、教えられるのではなく自ら考えるような機会を提供しています。</p>	<p>昨年は家族で考える事ができるように防災センターで家族参加の防災イベントや消防署での救急講習に参加しました。防災センターでは体験だけでなく「防災みらい会議」と題して保護者や兄弟児を含めて今自分ができる事について話し合いました。</p>	<p>災害はいつ自分の身に降りかかるか分かりません。定期的な訓練に合わせて学習も継続していきます。また、保護者の声を聞きながら家族が参加しての学習についても企画していきます。</p>
---	--	---	---

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>環境面では建物が古くバリアフリー化は難しい事が弱みであると考えます。また、職員も含めると13～15人に対してトイレが一つである事も不便を感じる時があります。</p>	<p>活動前後や帰宅前などトイレが混雑する時間があります。また階段途中にトイレがあるため、トイレから出る児童と階段を昇降する児童が重なる時があります。</p>	<p>施設の構造を変える事は無理ですが、声を掛け合うことで事故を防いでいます。また、トイレにギリギリで行っていた児童も余裕を持っていく事ができるように成長しています。不便がある事で成長する事ができました。</p>
2	<p>個別支援計画や児童の記録を利用して支援方針を職員間で共有し、皆で同じ方向での支援を行ってはいますが、職員それぞれの得意が違うため、一定の成果ではありません。この度、送迎時の報告の程度に違いがある点についてご指摘を頂きました。</p>	<p>職員研修は外部の研修を受ける機会を設けたり、定期的に社内研修を行っております。その日の児童一人ひとりに対する情報は送迎に出ている職員と施設内で支援している職員とでは差異が生じてしまいます。</p>	<p>得意が違うからこそ多彩な支援が行えると考えています。現状、職員の良いところを伸ばし不得意なところを補いあえる関係であると考えています。子どもへの支援の質を担保しながら情報共有が簡単にできる方法について模索していきます。</p>
3			